



大企業粉砕
奴らはゲシュテル

前衛技術とは何か

なぜ我々は巨大テック企業を粉砕せねばならないのか

前衛芸術ならぬ我々が前衛技術は、ハイデガーの『技術への問い』とシチュアシオニストを参照点に、リベラルな技術倫理の中立性神話を暴いて技術の権力性を露呈させ、人々を支配し疎外するゲシュテル／スペクタクルだと現代の情報資本主義に対して根源的な批判を展開するが、危機に際して原典のように放下するのでは余りにも政治的に無力なので、ハイデガー左派として被投性よりも現存在の投企を強調し、ゲシュテルの挑発に応答せず寧ろ積極的に転用と総破壊、単なるラッダイトでは無いそれ以上の存在論的革命を遂行する事によって、存在の開示を可能にし本来性を回復したポイエーシスな技術＝自由な生の“状況の構築”を実践する。

ハイデガー ドイツの存在論の哲学者。主著は『存在と時間』

シチュアシオニスト 前衛芸術家・革命集団。五月革命に影響を与える

技術倫理 技術はこうあるべきという規範。しょせん体制的なコンプラ

中立性神話 技術は道具で使い方次第で良くも悪くもなるという幻想

ゲシュテル 総駆り立て体制。例えばダムは川の水を資源として配置

スペクタクル 広告やメディアなど、生を媒体する見せかけのイメージ

被投性 この世界に自由に意図せずとも「投げ出されて」いる事実

現存在 いま、ここにいる存在。かいつまんで言えば私たち人間

放下 支配されず「任せる」ことで、技術の本質に触れるスタンス

投企 現存在を未来の可能性に向かって積極的に投げかけること

転用 既存の作品を改変して意味を革命的に捻じ曲げさせる戦術

総破壊 バクーニン主義の用語。支配が成立する条件の根底的破壊

ラッダイト 産業革命期イギリスの手工業者の機械打ち壊し運動

存在論的革命 政治や社会ではなく、存在の開け方を変える革命

開示 存在が立ち現れること。具体的には花が咲くとか一般

本来性 死（有限性）を自覚し現存在が投企して生きること

ポイエーシス ギリシア語由来で、詩作や芸術活動など全般

状況の構築 瞬間を組織化して生の直接的な状況を作ること